

平成25年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

1 日 時 平成26年3月20日(木)

2 場 所 徳島県庁10階 大会議室(徳島市万代町1丁目)

3 出席者

- (1) 委 員 21名中16名出席 (別添「名簿」参照)
- (2) 大学校幹部 飯泉大学校長(知事), 佐野副校長(県教育長)
小泉県立総合大学校本部長, 各学部長ほか
- (3) 事 務 局 北池副事務局長ほか

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 新任委員紹介
- (3) 大学校長挨拶
- (4) 議 事
 - ① 県立総合大学校の概要及び取組状況について
 - ② その他
- (5) 閉 会

5 配付資料

- (1) 資料1 徳島県立総合大学校設置要綱
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程
徳島県立総合大学校運営協議会公開要領
- (2) 資料2 県立総合大学校の概要及び取組状況 ほか

6 議事概要

- (1) 開会
- (2) 徳島県立総合大学校長(飯泉知事)から挨拶
- (3) 新任委員(3名)の紹介
 - 平成25年度に新たに就任した3名の委員を紹介
 - ・放送大学徳島学習センター所長 大西 徳生 委員
 - ・学校法人穴吹学園校長 南部 貢年 委員
 - ・徳島消費者大学校OB会副会長 山城 美三子 委員
- (4) 議 事
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程に基づき玉有会長が議事を進行。

○ 会 長（玉有委員）

会長役を仰せつかっております玉有です。それでは、本日の議事を進行してまいります。

○ 事務局

議事（１）県立総合大学校の概要及び取組状況について説明。

○ 会 長

ここからは、ただいまの説明に対する質問やご意見、また県立総合大学校の運営についてのご提言、ご感想などを頂戴できればと思います。

まず、事前に質問をいただいております岩野委員さんからご発言をお願いできますか。

○ A委員

今回２点ほど質問、提言があります。

まず、私ども経済研究所と同じシンクタンクということで、先ほどもシンクタンク機能の充実をおっしゃっておられたのですが、率直な意見と申しますか、感想といたしましては、１つ１つの研究テーマが少し小さいといいたいまいしょうか。個別個別の事象ですよね。キクイモや八朔とか、１地域１商品というか１連携という感じで調査研究をされていますが、せっかく県のシンクタンクですし、政策創造部の中にあるということでもありますので、やはりこのシンクタンクにしかできない県全体の問題に波及するような処方箋が作れるような研究ができるのではないかという風に思っております。例えば６次産業化プロジェクトを２つやっておられるのですが、そもそも徳島県全体の６次産業全体の問題は何であるかとか、そういったところからもっと高所から研究していただいて、実際に各県庁内の部署の方と一緒に行動し解決していけるシンクタンクなれるのではないかという風に期待というか思っております。

本当に徳島県は民間の方であるとか特にNPOの方の活動が活発ですので、それを支えていくとか、効果を何倍にも広げていくというところがすごく大切だと思うのですが、もう１つ高所から県のシンクタンクとして効果が県全体に波及していくような研究をされたらいのではないかと思います。例えば、県の事業の中でも徳島の魅力発信戦略事業というのがあると聞いておまして、共通コンセプトを作るとかメディア戦略とか阿波踊りの活用とか書かれているのですが、そういった辺りを徳島に足りないところは何なのかとか、では他県はどの様に頑張っているのだということ調査研究されてそれを広く地域や商品に限らず、広くブレイクダウンというか効果を落としていくような活動をぜひしていただきたいなという風に思っております。

あと、シルバー大学校とか消費者大学校とかそういったいろんな組織のネットワークをつないだ総合大学校ということはQ&Aというのを読んで分かるのですが、そういったいろんな大学校が連携していくっていうのはすばらしいと思いますが、例えば運営の合理化という意味でいろんな財団とか協議会とかが別々に運営されておられるのを統一してやっていけないのかなというのは１つ質問です。合理化という一言で済

ましてはいけないといわれるかもしれませんが、結局双方にとってウィンウィンの関係で情報が集約されたり事務手続きが減ったりすることがあると思いますので、そういったこともいかがでしょうかということで、以上2点です。

○ 会 長

A委員さんからは県立総合大学校の政策研究センターで行っております調査研究について、テーマの選び方についてのご提言がございました。もう少し県全体からのテーマ設定があるべきではないかというようなご指摘でございます。これにつきましては、実は私も外部評価委員会をお預かりしているわけなのですが、先日その委員会を開きまして、その中でもテーマの決め方、現在は県庁の各部局の中から出てきたテーマを基にしてテーマ設定を行ってきているわけなんですけど、もう少し総合大学校の政策研究センターとしてのトップダウン的なテーマの決め方、まさに今、A委員さんがおっしゃる様な大所高所、県全体からのテーマ設定のようなものも必要ではないかという意見も出されたところでございますので、今後検討を進めていただければと思います。

それから様々な県関係の財団等との連携した活動があるわけですが、それをもう少し合理化できないかということですね。

○ A委員

多分全ての団体に総務の方などがいらっしゃるんで、その辺をある程度合理化していただければ。いろんな団体に人が足りないということですので、差し向けるべきところに人が差し向けられる気がします。

○ 会 長

様々な団体が県立総合大学校と連携講座という形で展開をしているところですが、その中で全体としての効率化というか合理化も視点に入れて運営していく、そういった方向でよろしく願いいたします。

それでは続きまして、B委員さんお願いします。

○ B委員

広報のことでお話ししたいと思います。去年は野田知佑さんの講座を実施していただき本当にありがとうございました。すごい人気でした。ただ、その時は総合大学校の講座ということが、自分が言ったにもかかわらず、すっかり頭から抜けていたんですね。野田知佑さんの講座が実現できたのと、1つのイベントみたいにとらえていて、自分の発言で実現したんだということがピンときていなかったのが残念だったなと思いました。参加した方からもすごく評判がよく、私自分見に行かなかったのを申し訳ないなと思ったくらいです。

広報の仕方ですが、簡単に分かるようにしていただきたいなと思います。キャッチフレーズを入れたり、どこが主催なのかが分かるようにするとか。

それと、私は徳島新聞の販売店をやっているのですが、各店舗は、月に1回、地元

のミニコミ誌を出しています。それで各店舗ともいろんな情報が欲しいんです。徳島新聞の販売局に言っていただくと、無料で細かい情報を載せられるタウン誌、全部で100以上ありますが、そこに送ってもらえるんです。

あらかじめタウン誌に収まるようなものを作ってからメールで送ると掲載してもらえます。小さい枠の中で作って「総合大学校主催の何々のイベントがあります。ぜひご参加を」という位で作ってしまって、それを紙に落とし込めばもうできるっていう形のものなら簡単に送れると思うんです。販売局とつながっていれば。各店舗の南部なら南部、本部なら本部のところ送ってくださるので、それをぜひ活用して無料で細かく宣伝できるというのをさせていただきたいなと思います。マークとか入れて作ったらそれはすぐ使ってもらえるので。そういったところを探し出して活用していただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 会 長

大変具体的なお提言をありがとうございます。

昨年は広報をもっとすべきだというご提言をいただいたのですが、今日は、例えば新聞関連で広報を行えばもっと無料でもっと広くPRができる、しかし、それにはちゃんとした締め切りや書式、そういったものをわきまえた上でタイミングよく提供していただけるとそれが上手く伝わるよということですね。

○ B委員

そうです。タイミングよくそして簡単にパッと使えるというものを作っておかないと使ってはもらえません。そこでさらにそれをデザイン化しなければならないということになると手間がかかるということで使ってはくれないので、落とし込むだけがいいという状態でお渡しできるようなものを作ってしまう方がいいと思います。

○ 会 長

ぜひ本部、南部、西部校でもご提言を活かして取り組んでいただければと思います。

○ 事務局（本部長）

県立総合大学校の小泉でございます。

現在県立総合大学校の講座情報をどういうふうに広報しているかということについて簡単に説明させていただきたいと思います。まなび一あ徳島のホームページや今日もお配りさせていただいております講座一覧表こういうものの他、県の広報紙である県庁だより、それから徳島新聞の情報とくしまにも掲載していただき、広報をしております。その他、講座ごとに必要に応じてチラシを作成して配布をしたり、マスコミに取り上げてもらうために資料提供なんかもしたりしているところです。その他にはメールクラブ会員を募っております、会員には定期的にメルマガで講座情報を配信しております。それから、最近はケーブルテレビでもいろいろ講座のアナウンスをしてくれていまして、最近特にそのケーブルテレビで見たと問い合わせしてくる県民の方もかなりいらっしゃいます。

昨年B委員さんの方から、南部校だけではなく他の学部でも南部圏域でいろいろ講座を行っているので南部圏域で行っている講座が一目でわかるようなものをつくっていただけないかとのご要望もいただきまして、南部校で南部圏域で行っている講座をひとまとめにしたチラシをつくらせていただき、講座一覧表と一緒に配布をさせていただいております。西部校でもそれを聞いて同じような取組みをしております。

ただ今、まなび一徳島の主催であるということをしかりと広報すること、それからキャッチフレーズを工夫してすぐ分かるような広報をしたらどうかということ、新聞の販売部と協議をしてそういうミニコミ誌に掲載できるようにするというご提言をいただきました。そのような取組みができるように頑張りたいと思います。

○ 会 長

どうぞよろしく申し上げます。

次にC委員さんからご質問をいただいております。

○ C委員

さっきのA委員さんとB委員さんとの意見と少し重複するところもあるんですけども、私も広報の点ですね、そこら辺が少し課題かなと思うところがありましてご意見申し上げたいと思っております。この冊子の中に全部で1,000件位の講座があります。例えば県立博物館や県立美術館などいろんなところから連携講座として集まってくると思うのですが、これだけたくさんの講座が1ヶ所に情報として集まっているというのは、県立総合高等学校のかなりの強みだと思います。かつ、とても貴重な情報源だと思います。これが県下唯一かという調べてみると、こうしたイベントの情報が集まっているポータルサイトが他にもあるんですね。公益財団法人徳島県文化振興財団の「あわカル」というものが最近できていたりとか、e-とくしま推進財団の「とくしまポータル」サイトとか、観光協会の「阿波ナビ」とかポータルサイトが乱立している状態なんですね。それぞれ特色があって一元化する必要はないのですが、県下では、文化系のこうした講座の拠点施設になっているのが県立総合高等学校なので、できればこうしたポータルサイトと講座情報を相互連携するとか、隣のポータルサイトにこちらから情報をいくつか提供するとかですね。県立総合高等学校では集約する1つのフォーマットがもうできていると思いますので、それをお隣のポータルサイトと連携して相互連携できるようにすると利用者はどこのポータルサイトからも検索できてアクセスでき、効率化が図れるのではないかと考えています。

そういった意味で県がイニシアティブをとっていただけるといいのではないかと考えました。ぜひ検討していただければと思います。

○ 会 長

県関係の様々なイベントについてのインターネット上のポータルサイトはいろいろあると。それぞれに目的、活動別につくられているわけなんだろうけど、それを相互に連携して利用できるようになるとより利用者にとっていいのだが、というご提案でした。

○ 事務局（本部長）

イベントポータルサイトの講座情報の相互利用，相互提供というお話をいただきました。今もお話がありましたように，いろいろなイベントのポータルサイトがございます。e-とくしま推進財団の運営しております「とくしまポータル」ですね，これにつきましては既にお互いにポータルのIDパスワードを持っておりまして，講座情報の相互利用，相互提供ができるようになっておりますし，利用しております。更に利用する機会を拡大していきたいと思っております。

それから，文化振興財団が運営する「あわカル」ですが，こちらについては，芸術・文化に関連するイベントや講座を掲載しております。

それから，観光協会が運営する「阿波ナビ」については，観光に関する情報を掲載しているということで，それぞれサイトごとに特徴がございますので，まずその「あわカル」については，まなび-あ徳島で主催する文化とか芸術に関するイベントや講座をそちらでも載せてもらうようお願いをしたいと思います。「阿波ナビ」につきましては，まなび-あ徳島が主催する観光に関するイベントや講座を載せていただくよう運営団体と協議したいと思います。

それから逆に文化振興財団とか観光協会が主催する講座についてはまなび-あ徳島の講座に位置づけることができますので，まなび-あ徳島の生涯学習情報システムで検索できるようにこれも運営団体と協議していきたいと思っております。

○ D委員

e-とくしま財団のDと申します。徳島ポータルという形で行事等の公開をするポータルサイトをご紹介いただきました。

これを始めましてもう2年位になります。徳島の活性化を底辺からほんの一端から支えたいという強い気持ちから作り上げたものです。地域の隅々の旬な情報をできるだけわかりやすくタイムリーに提供することにより，県民の皆様が行事等の情報を得て県内に動きが出てくれればと。多くの情報を持っております県立総合大学校の事務局の皆さんとぜひ連携してやりたいということで，従前から連携してまいりましたが，今，本部長から引き続き連携を強化していきたいというありがたいお言葉をいただきましたので，我々としては，ポータルの社会的責務などがますます発揮できるよう，皆様方のお役に立つよう多くの方々と連携して進めてまいりたいと考えております。

○ 会 長

ご支援の発言ありがとうございました。

次にE委員さんからご質問を頂戴しております。ご発言よろしく申し上げます。

○ E委員

西部の方でもアウトドアのイベントをいろいろ実施していただきました。また，剣山国定公園指定50周年ということでいろいろなことを計画してくださっているのでこのように続けていってもらえたら大変ありがたいです。

今年「剣山国定公園指定50周年」でありまして、大歩危峡は国の天然記念物にも指定されました。山と川はお互いに関係が深く、山の恋人は川、川の恋人は山という位のものでありまして、そのように関連のあるものを続けていっていただきたいと思っております。

今おっしゃったように、ポータルサイトであり広報のやり方やケーブルテレビなどいろいろあるのですが、つながっていけば、まなび—あ徳島の講座にはこういうことがあるのだなということがどんどん浸透していくのかなと思っておりますので、今もしていただいておりますけど、そのような形で続けていってほしいなと思っております。

○ 会 長

E委員さんからは、25年度から西部校で展開を始めた連携講座について、さらに継続をし、また他の分野でも連携を広げていって欲しいということでした。

○ 事務局（本部長）

今年度、「剣山登山源流ツアー」を実施させていただきましたのでご紹介いたします。このツアーは、西村委員さんから体験型の講座を開設したらどうかということを受けて西部校で剣山の観光推進協議会の方と連携をさせていただいて開催をしました。このツアーは、剣山の魅力を知り尽くした道案内人と一緒に初心者でも安心して体感することができる剣山から一ノ森までの4.5キロの周遊コースを巡るツアーです。今年度は85人参加していただいております。もう1つこれも昨年ご提案いただいた「妖怪の里歩き」について、こちらの方も企画をさせていただいたのですが、残念ながら催行人数まで集まりませんでした。この2つの企画は来年度もすることにしておりますので、E委員さんにもこういうツアーがあるということをPRしていただいて、ぜひ2つとも実現できるようにご協力をお願いします。

○ E委員

地元の方も案内人とかガイドの方とかが十分勉強しながら控えておりますので、よろしく願いいたします。

○ 会 長

次は、今年度新たに委員になられた皆様からそれぞれご発言をいただければと思います。まず、F委員さんご発言をお願いできますか。

○ F委員

昨年の4月に着任させていただきました。この運営委員会に出席させていただいて、いろんな取組みをされていることを今改めて知ったところです。

この1年、放送大学を、もっと地域の県民の方々に知っていただき利用していただくことを考えてまいりました。

県立総合高等学校ともこれまで以上に連携をお願いしたいということで、放送大学徳島学習センターでは総合高等学校の講座案内をホームページに掲載（リンクでの掲載）

し、また、総合大学校においても放送大学徳島学習センターを、県のホームページで見えやすい位置においていただく（リンクでの掲載）など、一步一步進んでいっているところでございます。

放送大学徳島学習センターの現状ですが、現在700名くらいの学生がいます。この4月の入学生がだいたい200名くらいです。放送大学は1983年に創立し、今年度で30周年になります。徳島学習センターは15周年を迎えました。

本当に総合大学校はいろんな幅広い分野での取組みをされていて非常に参考にさせていただいております。

放送大学の特徴は、学問を体系的に学ぶことができるとか、着実に単位を取って一般の大学と変わらない学識ができるというようなところですね。もう少し私どもも底辺のところの学習については総合大学校さんの案内もさせていただき、また総合大学校で学ばれた方についても、もう少し体系的にあるいは単位を取って学識を得るということに対して放送大学を利用させていただくというような連携がもっとできていけばと思います。まだ立ち上がったばかりですので、右も左も分からないところで問題を探りながらしていっているところですよ。またご教示くださいますようお願いいたします。

○ 会 長

総合大学校と放送大学、目的と内容に相違はございますが、それぞれの特色を相互に活かしながら連携をより一層深めていきたいと、そういうご提案でした。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 事務局（本部長）

温かいお言葉をいただきました。放送大学の講座につきましては、県立総合大学校の連携講座として位置づけをさせていただいており、講座情報につきましても本日お配りいたしました講座一覧表、あるいはまなびーあ徳島のホームページで放送大学の講座も紹介させていただいております。

それから、とくしま学博士につきましては、放送大学の「まなびの森講演会」に講師としてお招きいただき、講演する機会を与えていただきありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

○ F委員

こちらもよろしくお願いいたします。「まなびの森講演会」では、徳島県立図書館と共催の形でやらせていただいております。本日委員としてお越しになっているKさんには、去年は講師ということでお世話になったいきさつもございます。もっとも幅広く取り組んでいきたいと思っておりますのでご支援またよろしくお願いいたします。

○ 会 長

それでは続きまして、G委員さんどうぞよろしくお願いいたします。

○ G委員

お世話になっております。穴吹学園は高松に昭和60年、徳島は61年に設立し、徳島校は今年で28年目を迎えております。徳島に全部で3校、高松に9校、福山に5校、広島に1校で4市で18校あります。今年度の入学生が4市で18校、1,450名くらいの入学者がおります。現在、卒業生も18校で約3万人くらい、徳島校がもうすぐ7,000名になろうとしておりまして、今年の入学生も260名、在校生は500名くらいです。地域に根ざした人材づくりということで卒業生の9割が地元で働いております。地元のニーズにあうような学科作成ということで、創業から数えますと全部で50学科くらい編成を行い、現在は14学科です。その時々に対応をするような学科の編成をしながら乗り切っているところでございます。

私が来る5年くらい前は生徒数が削減し少し苦しかったようなのですが、現在はどうか経営の基準になるような生徒数にたどり着いているような状況です。なにぶん国の補助なしでやっておりますので、生徒数が非常に大事な状況になっております。ご存知のように平成30年になると生徒数が大きく減りますので、今年度も2学科を新しく付け加えまして、新たな生徒の集客にも対応しております。

したがって、オンリーワンとくしま学講座とか地域未来学講座とかで徳島の魅力を発信ということをされているのは非常に良いことだと思います。できるだけ徳島の子どもが徳島に帰ってこられるよう、徳島県以外であっても神山でやっているように県外の方が徳島を魅力に感じて住んでくれるような、子づくりができるような県づくりとか、もっとざっくばらんな感じでいうと、徳島県主催のお見合いツアーのようなものもやっていただければ。1回だけでなく何回も。徳島県は人口が80万人を切っていますし、何かやらないと。魅力ある県づくりを非常に進めてくださっておりますので、ぜひ集団見合いを実施していただければと思います。

○ 会長

地域に根ざす、あるいは地元志向の人づくりを進めていらっしゃる中で若年世代の減少で厳しい面もあるということですが、徳島県の人口をこれからも維持し、さらに増加させていくために、この学びの場でも徳島に、地域・地元を目指すような取り組みをさらに進めて欲しいというご提言でした。

それではH委員さんどうぞよろしくお願いいたします。

○ H委員

消費者大学校OB会のHです。

私たちは会員相互の情報交換を緊密にして親睦を図るとともに、今の消費者問題についての研鑽に努めて、活力ある地域社会の形成に寄与することを目的として立ち上がったOB会です。

会員は100名前後いたのですが、25年度は80名に減ってしまいました。活動としては、偶数月と奇数月に分けて理事会と研修会を行っています。身近な問題の放射能汚染とか食品の表示とか、例えば最近では認知症の問題などをテーマにいろいろ講演会を開催したり、勉強会をしたり、県外研修を行ったりしています。今後ともよ

ろしくお願いします。

○ 会 長

消費者教育の活動と県民の生涯に渡る学習というのは非常に関連性、密接性が高いので今後ともどうぞよろしく連携をお願いいたします。新任の委員の皆様にご発言を頂戴いたしました。

続きまして昨年に引き続きご就任いただいております委員さんからご意見を頂戴してまいりたいと思います。

昨年以降でこんな進展があった、こんな活動をしたそういったご報告も含めたこともご披露いただければと思います。ではI委員さん。

○ I 委員

毎年11月1日とくしま教育の日に大学校長をはじめたくさんの方が来られての式典（奨励賞交付式）がございます。年に1度、まなび一あ徳島の奨励賞を受賞された方たちにお目にかかるのですが、非常に熱心で、徳島県にこれだけ意欲のある熟年層の方がいるのだということを考えますと心強く感じている次第です。

平成20年に設立されて6年目ということですが、6つの機能が非常にうまく機能しているかなと私自身は感じております。先ほどもとくしま政策研究センターについてのご発言があったのですが、私もそちらの方で外部評価の委員会の委員をさせていただいているところでありまして、参加していることについて少し述べさせていただきます。

わずかな予算の中で本当に研究員の方は研究されております。徳島県全体を見据えたマクロな構想は必要ですが、視点として私はミクロな視点も必要だと思います。特に新しい年度から、ここでいうと青色八朔の利用とか、様々な現状に即した小さな視点ではありますが、県民が活用できる実用的な研究という形では私は評価しています。

構想と視点とを上手くマッチングさせながら、今県民が何を求めているかということ視野に入れながら研究活動を行うことも必要ではないかなと思っておりますので、これからも頑張ってくださいと思っています。

それからもう1点、まなび一あ徳島でたくさんの方の講座がありますが、その名称が分かりづらい。例えば、「県民参加型自主講座」これを見て県民が自ら企画をして、そこに一般の人たちが入るという意味合いがどうも取りにくいんですね。ここは例えば分かりやすく、県民企画講座とかにすれば、県民が企画するんだなと一目瞭然だと思うんです。こういった名称をもう少し分かりやすく県民自らが企画しているというふうに打ち出した方がいいのではないかと思います。加えて言いますと、「まなび一あ徳島・県民講座」、これも県民が講座を受けるのかなというイメージはあるのですが、これは講師の方が県の職員であるってことであれば、県企画講座であるとか、県職員企画講座とかそういった名称にすると、これは誰が企画して主催しているのかがはっきりするのではないかと思います。ひと工夫いただければと思います。それから、「県民参加型自主講座企画募集」というのをプリントアウトして見ましたが、これを見ればもちろん趣旨はよくわかるのですが、例えばこの講座は年間50講座くらい開かれ

ているようなんですね。例えば、県民の方からこういう講座を私は自主的にやりたいという応募があった場合、広報に関してはまなび一徳島が支援をくださるようなのですが、応募いただいた中である程度基準になる指針というのはあるのでしょうか。この講座は採用するけれども、これは駄目だとか。それから応募した数の中で全てが自主講座として認められるのか、その辺の経過を教えてくださいと思います。

○ 会 長

奨励賞とか様々な県立総合大学校の行事に非常に積極的にご参加いただいておりますけれど、その時の様子もご披露いただきましたし、政策研究センターの研究テーマを巡ってのことにつきましても補足をいただきましてありがとうございます。

具体的にご提言をいただいた「講座の名称に関して少し中身が分かりにくい」、「応募に対してどのような基準で採択しているのか」ということについて説明をお願いします。

○ 事務局（本部長）

まず講座の名称についてですが、おっしゃる通りですので検討させていただきます。いろいろ工夫をしてもっと分かりやすいような名称を考えたいと思います。

それから、県民参加型自主講座の応募の基準ですが、細かい基準は手元には持っていませんが、厳しい基準はございません。平たく言えば公序良俗に反しないものであれば広くお受けしております。応募して採用されるのかということですが、今のところほとんどお断りするような事例はないのですが、先ほど説明させていただきましたように、「まなび一ある一む」という場所を活用しており、ほとんど毎日何かの講座を実施している状態です。いろいろ日程調整させていただいております。何とか皆様の希望に答えられるように調整をさせていただいている状況です。

○ 会 長

昨年いろいろご提案をいただいた委員さんもいらっしゃいますがご発言をどうぞ。J委員さんお願いします。

○ J委員

昨年も話はしたと思うのですが、僕は農家で収穫体験とかいろんな体験を実施しています。ですが、地元の学校だけで一般参加型というのでは実施できていないんです。農業を取り巻く環境は年々厳しいものとなってきていますし、農業の現状や野菜の栽培、食べ方をもっともっといろんな人に知ってもらいたいというのが常々あります。

徳島県は野菜の収穫体験だとか料理とか栽培の仕方で勉強会をいろんなところでしていますが、もし可能であれば支援センターからという形で。個人ですするというのはやっぱり難しい部分がありますので。

農作物なので、雨が降ったら中止になる。それで日が決められない。人数も決めにくい。いろいろこの講座一覧表に載せたいんだけど、収穫時期が定まらない、天候が定まらないとなったら、なかなか掲載しにくい。となると、農家が何軒か組んで、

この日この時間この人数で、朝は鳴門でイモの収穫体験と栽培講習会みたいなのを受けて、昼からは板野町やうちもそうなのですが、にんじんの収穫体験をしてその後、鳴門のイモとにんじんを持ち寄って一緒に料理をつくって、どんどん地産地消を広げていけるような講座があってもいいのではないのか。

さっきも講座一覧表を見ていたのですが、農家の講座は少ないんですよね。僕も実際、生産の方に一生懸命になり過ぎてPR活動というのがなかなかできていないんです。こういう講座を通じてもっと徳島県の野菜のPRができたらいいかなというのが個人的な意見です。徳島のここにある野菜はこういう人が作って全国的にこんな感じなんですよというようなことを講座で学んでシールがもらえたら嬉しいのではないかなと思います。

○ 会 長

大変魅力的な楽しそうな企画のお話でした。農業ですからちょうどその時期に予定を組んでいても、実っているかどうか分からないですし、たまたまその日が大雨になったりすると実施できない。ということがあるので、なかなか事前告知ができない、というお話なんですけど、そこをなんか工夫してタイミングよく、すぐ1週間後行ってもできるとかそういう広報はできるんじゃないですかね。どうでしょうか。

○ 事務局（本部長）

おっしゃるように収穫体験というのは日が決まりにくいとか、天候のこともありますので、前もって年3回の講座一覧に載せにくいということは確かにあると思いますが、日や場所が決まりましたら、チラシを作って配布、ホームページ掲載などの広報はすぐにできますので、いろいろな広報の仕方はあると思います。その辺りはお相談させていただきながらできると思います。地産地消の料理を知ってもらおうというお話がございましたが、今年度の第2回本部主催講座で体験型バスツアーを行ったのですが、その中で農大生が作成した徳島県のいろんな野菜を田中美和さんプロデュースで料理して食べていただくという内容のものを実施しました。

また収穫と料理と合わせてコラボした講座も考えられるのかなと、いろいろやり方あるかなと思いますのでご相談させていただきます。

○ 会 長

機動的な対応も期待できそうですので、ぜひどうぞよろしく願いいたします。昨年、K委員さんにはとくしま学博士としてお話いただきましたが、その後のご活躍をお聞かせください。

○ K委員

とくしま学博士ということで、学ぶ立場からのこれまでの経過をお話しします。73歳の時に公職を終えて暇ができたので、シルバー大学校に申しこみをして74歳から学び始めました。1年終わった後、歴史がもともと専門というか好きだったので、（シルバー大学校の）徳島校に申し込みをして1年間通いました。池田から

通うとなるとやはり不便なんですよね。朝、特急で行こうと思えば、7時に出ると8時に徳島に着いてしまうので10時から始まるので少し時間が余る。そこで普通列車で通っておりました。帰りも池田へ5時ごろ着きます。そういうのが週に1回ですが1年間続きました。

確か30人の同級生がいたと思うのですが、その中には作文なんか書いたことがないというような人がいました。講師の先生いわく「初めは文章にマルや点が1つもなかったな」というくらいでしたが、きちんと8,000文字の論文を仕上げて書きました。

その後、同級生皆でお金を出し合ってその論文を冊子に仕上げました。これはみんなが勉強してきたもの、先輩の方もたくさんの論文を書いているのだから。そして論文の中身というのは県下の歴史のオーソリティが指導したものなのだからそんなに間違ったことはないだろうということで、それならば県立図書館や大学等の図書館で見えるような形にしたらどうかと思い提案しましたが、経費の関係もあり、実現はしませんでした。

そして、パソコンの時代なので、その次の年に、(シルバー大学校の)三好校のICTに補欠入学しました。その途中で、とくしま学博士を受験したらどうですかというお話をいただきました。単位もあるということでしたので論文を書き、23年度に合格をいたしました。その後、ICTの資格も一応得ましたが、教えるというところまでいきませんでした。

また、おかげ様で昨年、教育センターでの15分の論文発表やまなびの森講演会での1時間30分の講演を行わせていただきました。また、今年、つい先日ですが、奈良の県人会で30分お話をさせていただきましたが、15分や30分という時間にまとめるというのは難しいなというのが正直な感想です。

私自身ここで学びましたことを地域貢献しているのかなと考えましたら、シルバー大学には直接お返しはしていないなと思いました。今、三好の井川町の公民館で古文書講座を月に1度担当をしております。それから三好の体育館の史跡巡りウォーキングの案内役を5、6年しております。この夏に50回になるのですが、三好地域を中心にあちらこちらの史跡など、たまには観光も兼ねてやっております。歩く度に新しい発見があります。

また、学部の同窓会では、慰問活動といいますか、いろんな施設に行って演芸を公開したり、自分たちで料理教室を開いたり、ウォーキングで三好市内を歩いたりして結構忙しかったです。

大学院の方もありますが、とても参加できる暇がないので今のところのご遠慮申し上げます。

ちょうど4年になりますが、700単位に少し届かないぐらいです。そのうち(シルバー)大学校と大学院2つで500単位を取得しています。あちらこちらのパンフレットを見て自分の興味のあるものを受講していますが、年間で20~30単位しか取れないなと思いながら健康に気を付けながら動いておるといところです。現状報告ということでお許しをいただきたいと思います。

○ 会 長

K委員さんからご自身の生涯学習の歩みをご披露いただきました。他の後に続く人たちの学びの1つの指針になるかと思しますので、他の場でもご披露されたことがあろうかと思うのですが、今後もまたそういったこともお願いしたいと思えます。

予定の終了時刻が近づいておるわけですが、できればあと1, 2のご発言をいただきたいと思えます。

L委員さんお願いします。

○ L委員

徳島大学大学開放実践センター長のLでございます。ただ、センター長と申しまして今月末で任期満了のため退任いたしますけれども。

今年度から大学開放実践センターでは生涯学習研究院という上級の公開講座、システムティックなプログラムを2年コースということで開講いたしまして、そこを修了した方々にはいろんな地域活動のリーダーになっていただこうと。これはもう当然公民館あるいはスクールでの講師も含んでおりますので、ぜひともここの連携も進めていければと考えております。

ただ、今のところ当方の講師が4人ですので分野が限られております。ですので、その辺をいかに徳島大学全体の教員を巻き込んで広げていくかというのが現在の課題かなと考えております。

若干名で募集をしたところ10名を超える方が応募をしてくださしまして、現在16名の方が学んでおります。2年コースですので早くて来年の3月に修了ということですが、活躍の場をいろんなところで見つけていただければと考えてございまして、総合大学校との連携も大いに考えられると思えますので、よろしく願いいたします。

○ 会 長

徳島大学の開放実践センターの方での新しい取組みをご披露いただきました。県立総合大学校の講座とも非常に関連性が深く、連携の可能性が非常に大きいようなお話しでございますのでぜひどうぞよろしく願いをいたします。

まだまだご意見は尽きないと思えますが、予定の時間が迫っておりますので、この辺りで意見交換を終了したいと思えます。

それでは、県におかれましては、委員の皆様からいただきましたご意見やご提言を十分踏まえまして今後の総合大学校の運営に取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。

なお、今回の協議会の会議録につきましては、事務局で取りまとめたものを私が確認した上で公表させていただきたいと考えております。このような扱いでよろしいでしょうか。それではそのように取り扱わせていただきます。

その他何かご質問等はございませんでしょうか。

それでは以上をもちまして本日の議事を終わらせていただきます。本日は議事の運営にご協力いただきありがとうございますございました。